

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2193100092		
法人名	社会福祉法人 明耀会		
事業所名	グループホーム 耀きの里		
所在地	岐阜県可児市瀬田80番地		
自己評価作成日	平成28年2月9日	評価結果市町村受理日	平成28年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosyoCd=2193100092-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成28年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな住宅街で、周りには田んぼや畑などがある環境の中に建っています。オープンして以来、3月末には、一年を迎えます。建物内は、広々とした造りになっていて、シルバーカーや車いすの方でも移動し安く開放感があります。また、同じ法人である特別養護老人ホーム瀬田の杜が道路を挟んだ斜め前方にあり、事あるごとに行き来し交流を深めています。また、家族の皆さんが気楽に来所して頂けるような、明るい雰囲気作りに努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体法人が特養ホームを運営しており、事業所は、開設一年目である。感染症に対するリスク管理が徹底しており、次亜塩素酸水生成器を設置し、いつでも消毒液を作ることができ、玄関先、洗面台、トイレ等、至るところに消毒液スプレーや手拭きが置いてある。食器類も大型食洗機で熱湯消毒している。事業所立ち上げプロジェクトメンバーが、そのまま管理者、計画作成者、介護者として支援に携わっている。看護師以外、全職員が正規常勤者で、職員間のチームワークが良く、地域住民の理解、防災の協力体制もできつつある。利用者に満足いくサービスを提供していきたいと、職員が前向きに取り組んでいるグループホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目: 23,24,25)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目: 9,10,19)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目: 18,38)	<input type="radio"/>	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目: 2,20)	<input type="radio"/>	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目: 38)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目: 4)	<input type="radio"/>	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目: 36,37)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目: 11,12)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目: 49)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目: 30,31)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目: 28)	<input type="radio"/>	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を正面玄関やグループホームの出入りに掲示し、いつでも目にする事ができ、職員一人ひとりが日々実践につなげる努力をしている。	グループホーム立ち上げプロジェクトのメンバーで話し合い、「地域と関わりながら、その人らしい生活を支援する」の理念を作成している。日々、実践を振り返り、折に触れ、確認しながら、理念に沿った暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域にある花フェスタやピアゴ、ゲンキ等へ買い物に行くなどしている。近所の方々に野菜の苗を頂き、畑で育て美味しく頂いたり、花の苗を頂き花壇やプランターに植え育てました。	事業所は、開設時に、地域住民の十分な理解が得られなかったが、管理者が自治会の会合に参加して、災害時の相互協力関係について発言するなど、職員の努力で、地域交流が少しずつ構築されて来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の幼稚園児の訪問や、ボランティアの訪問などを通じ認知症の理解や支援方法を、地域の人々に向けて活かしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、最近の入退所状況や前回から今回までの行事の様子、研修や勉強会などの取り組み状況を報告し、出席者からの疑問には答え、意見を頂ければ前向きに対応し、サービスの向上に活かしている。	会議の場を利用して、災害時、住民との関わり方や、野菜の作り方等について、積極的に相談し、事業所の理解者になってもらい、意見や提案を運営に反映させている。次回は避難訓練を併せて行う予定になっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の高齢福祉課に相談したり、アドバイスを受ける等、日頃から連絡を取りながら協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の案内は、直接、市の担当窓口に出向いて手渡すことで、顔の見える関係作りに取り組んでいる。他の町からの利用希望者に対する調整に、市の協力を得ている。行政主催の研修会に参加している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内・外のそれぞれの能力に合わせた研修の機会を設けている。会議などで報告の場を作り、職員皆のスキルアップに繋げるようにしている。	法人合同で、拘束について研修している。無意識で行ってしまうスピーチブロックの場面に対し、個別に指導し、申し送りでも共有している。転倒が予測される利用者の行動を把握し、転倒防止につなげている。職員は、拘束をしないことで起きる、リスク回避の工夫に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、権利擁護の勉強会でも学んでいるが、言葉遣いや態度等も含まれていて、普段何気なく悪気もなくしている事が実は虐待につながっていると言う事を普段から皆で再確認しながらケアにあたっている。		

岐阜県 グループホーム耀きの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で権利擁護の中の「虐待防止」をテーマにした勉強会を今年度は実施している。今後は、成年後見制度や日常生活自立支援事業についても勉強会でやっていきたいと思っています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、一つ一つをきちんと読んでいながら説明し、疑問点などがあればその都度お答えし、理解・納得して頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	今年度は、家族に敬老会へ参加して頂き、その際に家族会も開きました。各々自由に発言頂く時間を設け、家族がどのように思っているのかを聞くことができて良かったと思いました。良いことも悪いことも何でも意見箱とした意見箱も設置する方向で検討しています。	家族の来訪時には、意見や要望を引き出せるよう、話しやすい雰囲気作り心掛けています。季節の衣類の入れ替えや、おむつを持参してもらうことで、事業所に足を運んでもらう機会をつくっている。家族会での意見や提案を運営に反映させていきたいと考えている。	事業所は、苦情箱ではなく、来訪者が、良いことも悪いことも自由に書き表せる意見箱の設置を検討しており、良いことは職員のモチベーションにもつながると思われるので、設置の実現に期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からは、今のところ運営に関する意見を聞く事はないが、今後、フロア会議や日常的に意見を聞ける場を設け、運営会議で報告できるようにしたい。	職員の意見は、フロア会議でリーダーが取りまとめ、職員間のコミュニケーションを図っている。職員会議に、社会保険労務士の話を聞く機会を持ち、働く適切な環境作りに取り組んでいる。年2回、管理者による、個人面談を設け、職員の意見を吸い上げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスを導入し、職員のスキルアップを図るシステム作りを整備している。今後、職員が向上心を持って働けるような環境・条件の整備に努めたい。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内・外のそれぞれの能力に合わせた研修の機会を設けている。会議などで報告の場を作り、職員皆のスキルアップに繋げるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、まだ持っていないが、今後は、市内を中心に交流が持てるよう取り組んでいきたい。すぐ近くにある同じ法人の特養との交流はいつも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時や入所までの間に、本人や家族との話し合いの場を設け、現況や生活歴に配慮し、入所後も安心して生活できるような信頼関係を築くことができるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が出来ること出来ないこと、不安なこと、要望などに目を向け耳を傾けながら、何でも話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、出来るだけ本人にとって、今、必要なサービスを見極める為に、それまで使っていたサービスや生活歴や家族の要望も含めた情報収集に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、家族と生活している様に、家事を手伝ってもらったり、それぞれの出来る範囲で、生活を共にする者同士の関係を築きながら生活ができるよう配慮している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所後も家族と職員が協力しながら、本人と家族の絆を大切に、共に支えていく関係作りに努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院でのカットや月に一度の友達との食事会など、入所前と変わらぬ関係が続くよう支援している。	職員は、利用者の生活歴や日々の関わりの中で、馴染みの人や、場所を把握している。馴染みの関係にあるかかりつけ医や、美容院へは、家族の協力を得て支援している。2ヶ月に1度訪れる幼稚園児とも顔馴染みとなり、楽しく交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の好き嫌いも含めた関係を把握し、気の合う者同士が関わりあって、孤独にならないような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後や入院中も、その後の経過を確認し、必要に応じて相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活での声掛けやコミュニケーションを取る中で、本人の思いや暮らし方を酌み取るようにしている。困難な場合は、表情や行動から読み取り、家族の思いやスタッフの考えも含め検討している。	職員は、利用者に話しかけたり、寄り添う時間を多くして、利用者の反応や表情から、好き嫌いや、利用者同士の相性等を把握している。一人ひとりの思いや意向は、家族の意向も尊重しながら、利用者本位を大切に支援をしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族よりこれまでの生活歴を聞き取り、日常生活の中も、日々の会話から過去の知り得ない情報を聞き出し把握し、サービス提供に役立てている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりのその日の様子を申し送り、職員全員が個々の情報を共有し現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個別援助に対するモニタリングはフロア職員が毎日行い、月ごとのモニタリングについては、ケアマネが行っている。6ヶ月ごとの計画の見直しは、家族や関係者と会議を開き話し合い、サービスの見直しを行い、それに沿った介護計画書を作成している。	6か月に1度、家族、職員等、関係者が参加し、カンファレンスを行い、その人らしい暮らしを支援していく上で、目標となる計画を作成している。日々の記録は全てパソコン入力力で対応し、必要なデータが介護計画や、モニタリングに反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録へ個人別に記録し、申し送りとして利用者様の特変などは記録し、毎日のミーティングで情報を共有し、日々の実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	状況に応じて臨機応変に対応している。受診の際、事前に書面にて情報を伝達し、スムーズに受診できるよう支援している。		

岐阜県 グループホーム耀きの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ボランティアや地域の幼稚園・小学校、喫茶店、スーパー等との関わりが持て、地域の人や場の力を借り安全で豊かな暮らしが楽しめるような取り組みをやっていきたいが、まだしっかりできていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関として協力頂いているクリニックの先生より訪問診療を受ける事ができるようになり選択肢が広がりました。基本は、入所する前からのかかりつけ医ですが、入所後はどうされるのか本人や家族に聞き希望を優先に支援している。	かかりつけ医を継続するか、協力医にするかの選択肢を契約時に説明している。協力医は月2回の往診があり、かかりつけ医へは、家族が利用者の体調や服薬管理情報を持参して同行している。家族や医療機関と密に連携して、適切な医療を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、日常生活の中で体調の変化や気づいた事など、看護職員に報告・相談し利用者が適切な受診や看護を受けられるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時には、医療機関への情報提供を行い、入院期間中には面会させて頂き、その後の状態を相談員や看護師より聞き取り、家族の意向も踏まえながら安心して治療ができ早期に退院ができるよう支援をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、「看取りの対応はしていません」と、家族には説明しています。そして、重度化した場合は、主治医、家族、施設との話し合いで対応できるできないを判断の上、他の施設を紹介するなどの支援をしています。	契約前に、看取り対応がないことを説明しており、他施設の申し込みを済ませている利用者もいる。利用者の重度化を見極め、その都度、家族と話し合いながら、事業所で出来るところまでを支援し、次の選択肢を紹介する等、不安のないよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ADEの設置に伴い、職員は消防署での講習を定期的を受け、緊急時に対応できるよう訓練している。また、緊急時の救急搬送の場合は、どこへ搬送したら良いのかも事前に確認している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を年2回実施するよう計画を立てています。そのうち一回は消防署員立ち会いで行うようにしている。日中や夜間もそれぞれに想定別々に訓練し、スムーズに避難できる方法を身につける。地域(近所)の方にも参加の呼びかけをして、協力体制を整えたいと思います。	防災訓練について、推進会議の中で話し合い、自治会長に相談したことで、連絡網に加わってもらうことができた。3月の推進会議と併せて訓練を実施する予定になっている。地域住民の避難場所としても受け入れ、備蓄もある。	地域の中の事業所として根付くためにも、地域、事業所が互いの訓練に参加し、双方の防災協力関係が育つことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重しつつ、その場に応じた声掛けをすることが望ましいが、スタッフ間にもバラつきがあり、介護する側の成長も望まれる。	利用者への接し方に対し、職員個々が自覚するよう、学習会を行っている。ケアの場面で、職員の不適切な対応に気づいた時には、職員育成の立場にある職員が、その場で、利用者の思いに立ち返るよう、根気よく指導している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	～ですが、どうされますか？など、その都度声掛けし確認することで自己決定できるように働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来るだけ一人ひとりのペースを大切にし、介護する側のペースにならないよう、無理強いや希望に沿った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴時や外出時などに着る服を自己にて選んで頂いたり、提供する理美容時には、長さやカットの仕方を美容師に注文されるなど、その人らしい身だしなみやオシャレが出来るような支援をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	副食を買い取るシステムで主食と汁物のみホーム内で調理している。副菜の盛り付けや食後の食器洗いなどは出来る方をお願いしている。又、おやつレクや外食レク等計画しそれも楽しみの一つとなっている。	食事の準備、片付け等は出来る人が行っている。毎食前に、嚥下予防体操を楽しく行い、静かに音楽を流し、落ち着いて食事をしている。事業所で採れた野菜で、鍋パーティーをしたり、行事食の日は、カロリー制限のある人も、ハードルを下げて楽しんでもらうよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量の記録をしている。その日の体調や気分もあるが、一人ひとりの栄養バランスや水分量を考えながら、一日を通し出来るだけ確保できるよう支援する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔内の清潔が保てるよう、義歯の洗浄やうがい、歯磨きと一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じたケアをしています。		

岐阜県 グループホーム耀きの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	尿意・便意がある方は、それに任せての排泄ですが、排泄リズムを理解した上でのごちからの声掛けや誘導をさせて頂くこともあり、できるだけトイレでの排泄ができるよう支援しています。	利用者のほとんどがリハビリパンツを着用し、布パンツの人も居る。職員は、排泄リズムを把握し、失敗のないよう、声掛け、トイレ誘導等で支援しているが、トイレが2か所と限られ、排泄のタイミングが重なると、トイレの前で待つことになる状況が生じている。	職員が、利用者の排泄自立支援に努めているが、トイレ不足という現状がある。ハード面での取り組みはすぐには難しいかもしれないので、代替法も含め、中長期計画を立てて検討し、トイレ不足の解消が期待される。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の有無や回数を記録し、便秘がちな方には水分を多めにとるよう促したり、適度な運動をすすめる働きかけをし、個々に応じた予防に取り組んでいます。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本週二回の入浴となっている。拒まれる方もみえるが、その場合には日を変えたり、時間をずらしたりして対応している。	入浴は、午前、午後に分け、希望に合わせ、柔軟に支援している。個浴槽は、片面が開放式になっていて、またぎが困難な人でも対応できる。毎回湯を入れ替え、清潔で、安全に入浴出来るよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入床時間はそれぞれに任せて休んで頂くようにしています。そして、日中もソファで休んだり、居室で横になったりと各々状況に合わせて支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	いつでもスタッフが見ることが出来るよう最新情報で薬情ファイルを看護職員が整理しスタッフルームのキャビネット内で保管管理している。内服薬などの変更があった場合には、連絡ノートに記載したり、申し送りで情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや掃除、食器洗いなどの家事を手伝って頂くことで、張り合いややる気・喜びに繋がるような生活が送れるような支援をしている。生活歴や得意な事を活かした楽しみや気分転換などの支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	家族との外出、かかりつけ医への受診、外食や買い物支援、日常的に散歩に出て外気浴をしたりと気分転換につながる支援をしている。	事業所の敷地は広く、花壇や野菜畑を眺めながらの散歩や、外気浴を日常的に行っている。周辺の田畑、併設の特別養護老人ホームへの道筋も散歩コースになっている。リフト付き公用車を活用し、紅葉狩りや外食等に出かけ、日々充実した生活を送れるよう支援している。	

岐阜県 グループホーム耀きの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設管理で各利用者ごとに預り金として少額預かっている。その中から飲食に使ったり買い物したりと個別に援助している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	大切な友人からの電話があれば、取り次ぎ自由に話せる場を設けたり、電話したいと言われれば事前に家族に了解をとり電話できるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は広々としていて、どこも気持ちよく使って頂けるよう配慮しています。季節を感じて頂けるよう、季節ごとの作品を皆さんで作成し、壁に貼ったり居室に展示したり、色々な工夫をしています。	廊下は広く、手すりが整備されている。除菌兼空気清浄器や加湿器、空調設備で室内環境が適切にコントロールされ、明るく快適である。壁は全て光触媒クロスを使用し、消臭対策がされており、壁に直接鉋が出来ないが工夫して、利用者作品や行事写真を掲示している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で思い思いに過ごせるような空間づくりや、一人で気ままに過ごせるように廊下の端にソファを置いたりしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はどの部屋もそれぞれに雰囲気があり、各々が使い勝手の良いように家具などを配置しています。馴染みの物も持ち込まれ落ち着いた空間になるような工夫もしています。	居室には、ベッド、洗面台、加湿器機能付き空調設備等が備えられている。防犯のため、窓は全開出来ないが、居室は明るく空気の入れ替えは可能である。各居室の入口に、その月に合わせた職員手作りの作品を飾り、利用者の五感に響く支援を工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、浴室、トイレ、廊下など歩行器やシルバーカーでも安全に歩行や移動ができるスペースとなっており、それぞれの場所には表示があり混乱や心配なく生活できるように工夫しています。		